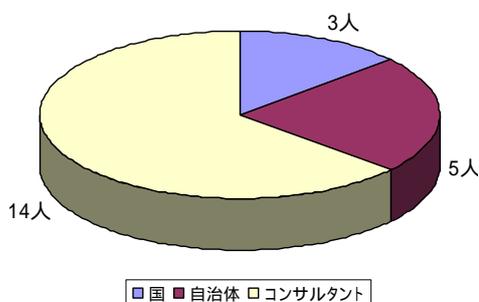


・ 修了アンケート

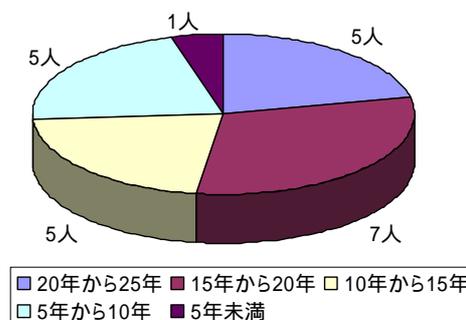
前期セミナー修了アンケート結果

1. 所属組織



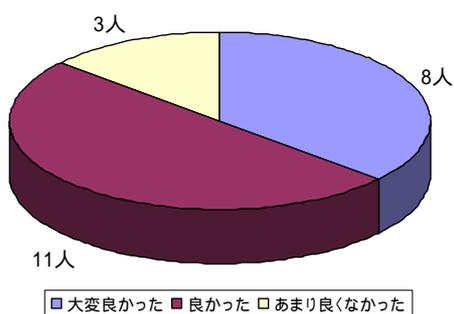
回答数 22 人 (未回収 4 人)

2. 勤続年数



平均 14.5 年 (最短 2 年、最長 23 年)

3. 研修プログラムの編成について



a. 大変良かった理由

- ・事例から理論までの多様な講義とグループ討議は有意義であった。
- ・多くの人(講師、参加者)との出会いが貴重な経験となった。等

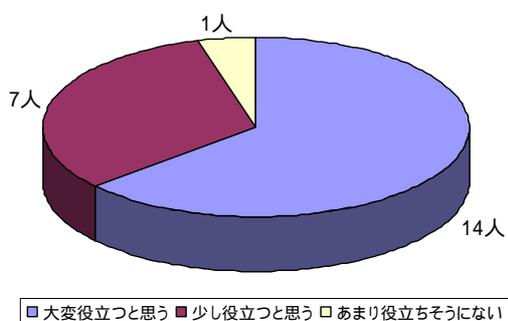
b. 良かった理由

- ・講義内容は新鮮で充実していた。
- ・グループ学習は面白かったが、進め方やねらいが不明確なところがあった。等

c. あまり良くなかった理由

- ・ねらいがわからなかった。
- ・プログラムの一貫性に疑問がある。
- ・時間的に非常にタイトであった。

4. 現在の職における研修成果の活用可能性について



a. 大変役立つと思った理由

- ・住民参加の業務に役立つと感じた。
- ・業務を行ううえで役立つ。等

b. 少し役立つと思った理由

- ・住民参加の場にリーダーとして立つ 30 代前半に役立つ。
- ・今後、住民参加の計画づくりの可能性が生じると思われるから。
- ・コンサルタントとしてどのように係わっていくべきが見えなかった。等

c. あまり役立ちそうにない理由

- ・市場性、マーケットの将来性を考えるとすぐに活用できるものは乏しかった。

5. 教科目について

特に参考になった教科目及び理由

科目：合意形成・コミュニケーションの場づくりとしてのP I

- ・様々なP Iについて学べたこと。
- ・演習は体で感じることができ、よく理解できた。 等
- ・ファシリテーターの実情が学べたことや重要性、必要性を感じた。

科目：リーダーシップ論、合意形成、住民参加

- ・地域活性化の発展過程がおぼろげながらも理解でき共感できた。
- ・リーダーシップ論が心理学的側面や行動規範の実際という面から分かり易かった。
- ・第三の身体という言葉が新鮮で納得させられることが多かった。 等

科目：アサーティブ・コミュニケーション

- ・コミュニケーションのあり方について理解が深まった。
- ・心理的なアプローチを、事例(実習)を通して行ったのが良かった。
- ・シミュレーション形式での演習は体で感じとることができました。 等

科目：地域マネジメントの実際(各講師からの講演及び全体討議)

- ・各講師からの実務レベルの苦労とその打開のプロセスは大変参考になった。
- ・現場が肌で感じられた。
- ・地域を思う心の強さ、大切さを痛感し、必要性を感じた。 等

科目：新しい地域マネジメントの潮流とその哲学

- ・地域経営の全体像を示してもらえて良かった。
- ・町づくりの潮流が聞けたこと。 等
- ・全体的な中の総論として意味が大きかった。

あまり必要と感じなかった教科目及び理由

科目：海外の事例報告

- ・オレゴンの事例の活用のしかたに必要性をみいだしにくかった。地域経営との関連性がよく見えません。
- ・海外事例が不要というわけではないが、日本の法制度・実情に当てはめたときに、どのように参考にすべきかの説明がほしかった。 等
- ・行政実務者にとってはあまり得るところがなかった。

科目：合意形成・コミュニケーションの場づくりとしてのP I

- ・ファシリテーターの役割は重要であると学んだが、日本での中立性は、少し別の要素が必要ではないかと感じた。
- ・教科書的すぎる。
- ・そのあたりの先生の私見がうかがえたかった。
- ・最も興味を持っていますが、このプログラムでは中途半端となるため。 等

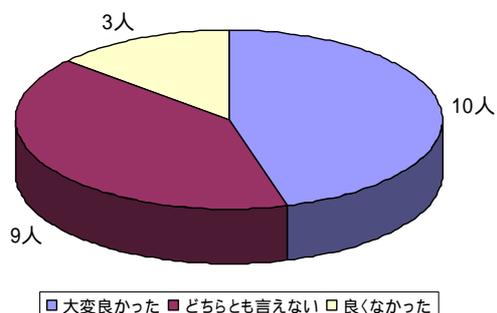
科目：アサーティブ・コミュニケーション

- ・教科書的すぎる。
- ・最も興味を持っていますが、このプログラムでは中途半端となるため。 等

科目：オリエンテーション

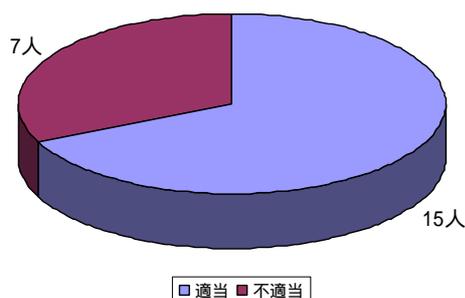
- ・日曜の夕方5時に幕張に行くには結局午後がまるまるつぶれてしまう。もっと短くするか遅くしてほしい。

6. グループ学習の進め方について



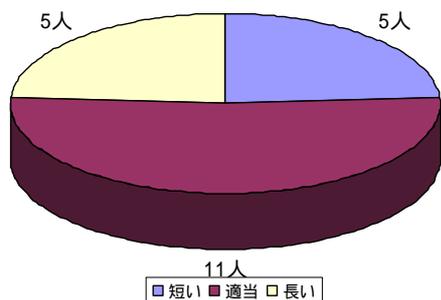
- a. 大変良かった理由
- ・ 様々な人の意見を聞くことができた。
 - ・ リーダーの枠組みに沿って効率かつ有意義な学習ができた。
 - ・ 課題をつくることから様々な討議ができた。等
- b. どちらとも言えない理由
- ・ 事前説明の不足により、不明確なまま議論した。
 - ・ 講義との関連付けをもう少しし指導すべき。
 - ・ フィールドワークが望ましいと感じた。等
- c. 良くなかった理由
- ・ ねらいや手法の設定があいまいでやりにくかった。
 - ・ 課題設定の考え方に対する説明が不十分であった。等

7. 実施時期及び日数等について 実施時期について



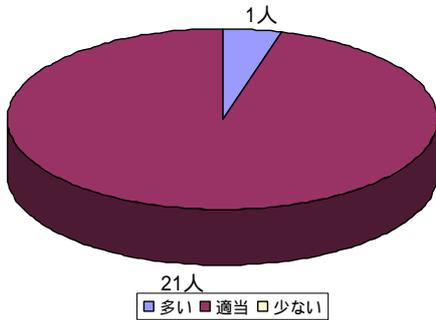
- a. 適当な理由・意見
- ・ 年度末を避けていただけだったので良かった。
 - ・ この時期でなければ業務状況から6月中旬。
- b. 不適當な理由・意見
- ・ 年度業務の立ち上げが多く、忙しい。
 - ・ コンサルタントの閑散時にお願いしたい。
 - ・ 議会前後は長期の研修は避けたい。等
- 希望時期は6、7月頃、11月頃が多かった。

実施日数について



- a. 短い理由・意見
- ・ グループ学習にもう少し時間がほしい。
 - ・ 講義及び事例研究ともに短い。
- 希望日数は5日もしくは7日間が多かった。
- b. 適当な理由・意見
- ・ 短期集中だとこれくらいが限界かも知れない。
 - ・ 長期間になると業務に影響するため。
- c. 長い理由・意見
- ・ 業務に支障をきたすため。
 - ・ 短縮可能。
- 希望日数は2日もしくは3日間が多かった。

実施人数について



a. 多い意見・理由

- ・10人程度がいい。

b. 適当な意見・理由

- ・これ以上だと収集がつかず、これ以下だと交流の場として不足。
- ・参加者間、参加者と講師とのコミュニケーションがとりやすかった。

8. 来年の研修までの間に何かやって欲しいことがありますか。また、来年までの間にどんなフォローアップを期待しますか。

- ・参加者間の情報交換、情報の共有化や地域経営等に関する情報提供を行ってほしい。
- ・現地視察やフィールドワークの実践。
- ・実務における講師陣からのアドバイザリー。
- ・中間講習会の実施。 等

9. 今回の研修による(人脈)ネットワークをどのように活用したいと思いますか。また、そのための地域経営指南塾からの支援策などについてご要望があればお書きください。

- ・メーリングリスト構築による情報交換、情報提供。
- ・定期的な講習会の実施。
- ・ホームページの掲示板等で情報交換の場を作っていただきたい。
- ・国の認定資格として位置づけてもらえないだろうか(対外的に説明しやすくなる)。
- ・定期的な懇親会等を開催するなどのコミュニティの場づくりを希望。
- ・かけこみ寺的な相談室の常設を要望します。 等

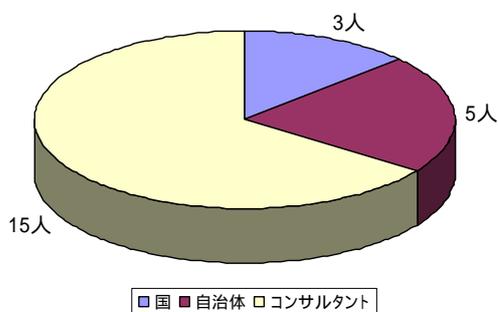
10. 今回のプログラムで最も高い成果が得られる人は、あなたの職場においてどのような人だと思いますか。イメージする人の部署(例: 課、系の職務の人)及び役職(or 年齢層)を教えてください(自分を含めてお答え下さい)。また、なぜそう考えるか簡潔に記述してください。

- ・総合計画環境部の管理職: 地域経営と企画経営に重なる所がある。住民参加に関わる業務がどれだけ大変か理解する必要がある。
- ・本人(都市計画)、まちづくり業務従事 10~15年、係長~課長補佐、実務の責任者、35~40才前後: 実践的な対応ができ、後輩への指導ができる。
- ・計画部門(河川系、道路及び都市計画)環境マネジメント部門、役職問わず 40歳前後: 建設コンサルタントの立場からは、ある程度実務経験があり、また、将来の自分の人生において(居住地を含めて)地域に関わりのある仕事をしたいと強く思う、志す人材が適任と思う。
- ・すべての社員: 今回のプログラムについては、職場内の全ての場において、活用が可能であると考えられる。
- ・計画系の職務で係長級(30才前半): 河川、道路、都市・地域などいずれの計画系でもマネジメント業がこれからのメインテーマであり、これからリーダーとなっていく30才前半の教育の機会としては絶好と思う。
- ・パブリックマネジメントセンター、プロジェクトマネージャー(35歳程度): これまで一通り自分で業務をこなしてきた人で、今後、プロジェクトマネージャー(課長)として、主体となって活躍する若い人材が参加するのがよいと思います。
- ・計画部、区画整理部、補償調査等、20代~40代前半: 住民や関係権利者との折衝の機会が多い部局で、発展途上の年齢層

- ・全ての部署・役職すべてで課長（35～45才程度）クラス：社会資本整備に取り組むにあたり、点ではなく面としてとらえる必要がある。加えて、中央から見れば地方分権という形で進むことは間違いないため、まさに地域経営という視点が全ての部署で必要となってくるため。また、役職は様々な経験をし、実践できる人でないと意味がないことから。
- ・計画系（都市・道路・河川・環境等）のすべての職務の課長代理級（35才位）：コンサルタントである当社の中で、設計を専門とする部署を除く全ての部署で今後業務としてPIに関与することは不可避と思われるからです。35才位が有効と考えるのは、ひと通り専門分野の知識の習得が済み、仕事の幅を広げるのに適していると思われるからです。
- ・都市計画あるいは道路、河川系の住民参加に興味のある係長、主任クラス：実務の最前線で悩んでいる。業務への反映が効果的。プログラムが活性化。
- ・計画系、主任～主幹（係長から課長）級、30～40代前半ぐらい：旧来の手法に慣れ親しんだ世代とまだ手法うんぬんの話でない世代には含まれているような30～40代にプログラムを受けさせるべき。その方が、上下共に伝達していくでしょう。
- ・まちづくり担当課（技術系、事務系は問わない）40才前後：まちおこしはやる気のある職員であれば出来ると思うので。
- ・独立 or マネジメント部 or 事務系：土木コンサルタントの通常業務を行ないながらの仕事ではないと思います。地域経営マネジャーとしてのスキルをみがいた人が係わるものと思います。
- ・自分と都市計画課全体の職員：都市計画を進めていく上での住民合意形成方法やまちづくり地域おこしの必要性はみんなにわかってほしいから。
- ・まちづくり系、40歳前後の人：今回参加された人は、40歳前後の人が多く、現場で直接指揮をとっている人だと思います。
- ・公園緑地課、主任～課長補佐30～50代：現在、最も住民参加が進んでいる職場であるため
- ・事業担当部事業調整課課長補佐及び工務所事業調整担当課課長 or 副所長（技術系）：PI手法及び地域支援を今後実務とする担当部局の職員の意識向上及びノウハウの修得が必要。
- ・企画課まちづくり担当40才程度：まちづくりをするには、全体がわかる人がよい。できれば、課の範囲をこえて活動しやすい部署がよいと思われる。 等

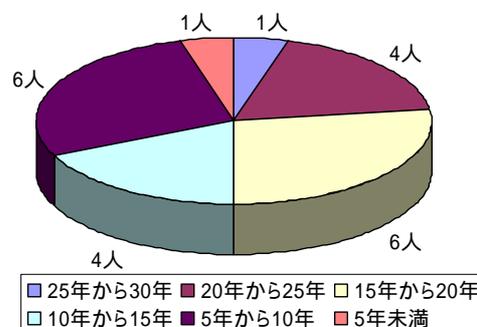
後期セミナー修了アンケート結果

1. 所属組織



回答数 22 人 (未回収 4 人)

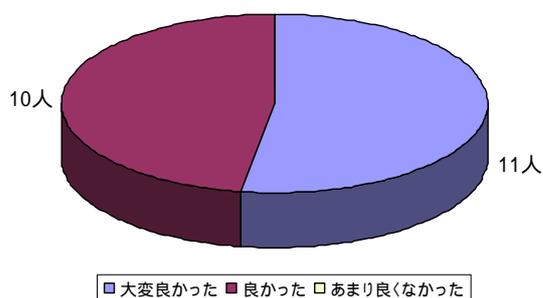
2. 勤続年数



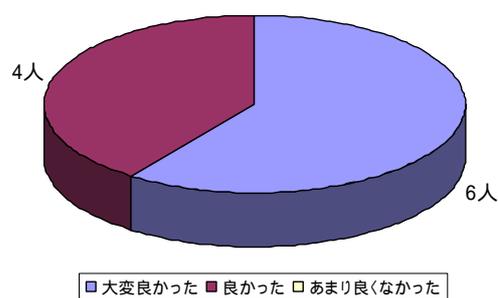
平均 14.5 年 (最短 2 年、最長 23 年)

3. 研修プログラムの編成について

・(全員) 後期セミナーについて



・(2年連続で参加した人) 2年間を通して



a. 大変良かった理由

- ・地域経営、まちづくりについての新たな切り口、手法を知ることができ大変満足しており、実践していけるものではないかと思った。
- ・昨年より講師の方と話が出来る時間が多く、なるほどと思うことをたくさんお話いただいた。
- ・昨年のステップアップであると非常に感じ、さらに一皮むけた気がする。
- ・まちづくりに携わる中で、自分のスタンスがどうあるべきかよくわかった。 等

b. 良かった理由

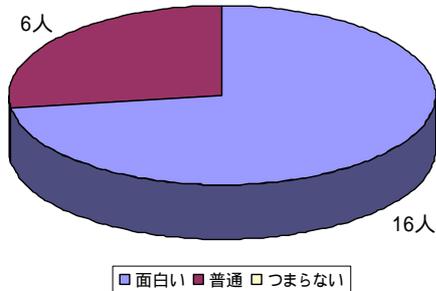
- ・他のコンサルや行政の人たち、大学関係者、実践者等と立場を超えてコミュニケーションができたこと。
- ・地域経営や合意形成について、技術的・論理的な知識が増えたこと。
- ・グループ学習で、講義だけでなく自分たちで作業・検討・発表・質疑ができたこと。
- ・地域経営、住民参加(行政参加)の重要性が認識できた。 等

4. 個々の教科について

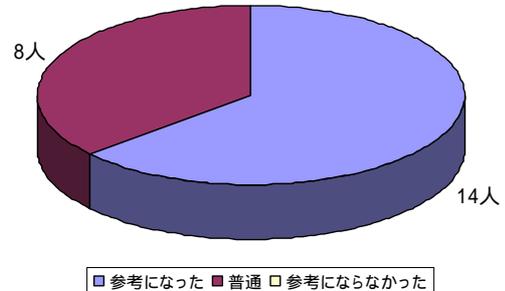
興味の度合い、理解の度合い、役立ち度、時間、等の項目について評価項目を で囲んでください。さらに、その下の数項目の質問に記述式でお答えください。

(1) 全体討議 (講師：岡田憲夫、日下部治、多々納裕一、神田 学 モデレーター：岡田憲夫)

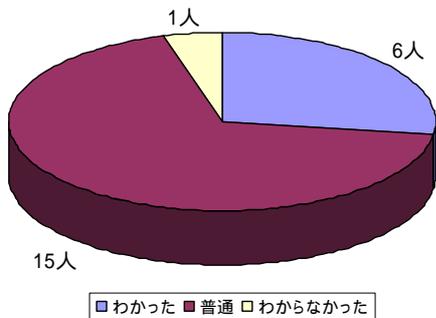
興味の度合い



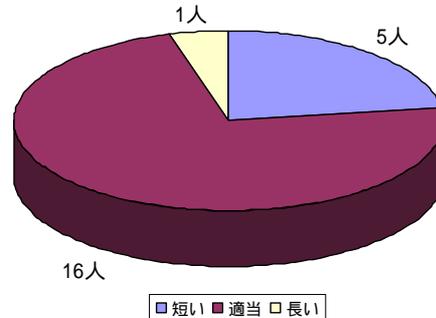
役立ち度



理解の度合い



時間



) テーマの設定についてご意見はありませんか。

- ・昨年を振り返るきっかけとしてよいテーマであった。
- ・今の時代、そしてまちづくりに携わっている者としてよいテーマであると思う。
- ・今回の研修で考えなければならないこと、業務を行う上での意識の持ち方等を自覚することができました。
- ・テーマと講義内容の関係がわからなかった。内容をイメージできるテーマの方がよかったと思う。
- ・今回は2回目の参加者が比較的少なかったため、初めての人にはわかりにくいテーマであったと思います。 等

) この教科の始まりで説明された趣旨説明などの導入部についてご意見はありませんか。

- ・先生方それぞれがお話になる点の紹介がありよかった。
- ・これから5年のうちに実践できるプランが必要であり、その結果を出すことが重要であるという言葉に、このセミナーの重要性を感じました。
- ・なぜ我々がここに集まっているのか。その理由が明確となりわかりやすかったと思う。
- ・昨年の内容、成果概要、つながり等について説明があればよかった。
- ・わかりづらい部分もあったが、実感できる内容であったと思う。 等

) パネラー間の役割も含めた全体の流れ、会場とのやり取りはどうでしたか。4人という設定も含めてお書きください。

- ・導入部であったため、会場からはあまり意見が出なかった。
- ・それぞれ個性的なパネラーのみなさんで、おもしろく受講できた。

- ・基本的に各先生の現在の研究の最先端のお話であり、全体としての統一感はありませんでしたが、参考になりました。
- ・4人の先生方のそれぞれの考え方やそれぞれの面からの地域経営の必要性が理解でき、よかったと思う。
- ・4人の分担でテーマ全体をどうかカバーしているのかわからなかった。大事なのは「テーマ」を常に意識できるように、どこかに明示して常に参照できるほうが良い。
- ・パワーポイントだけでなく、ペーパーベースでいただけると良かった。

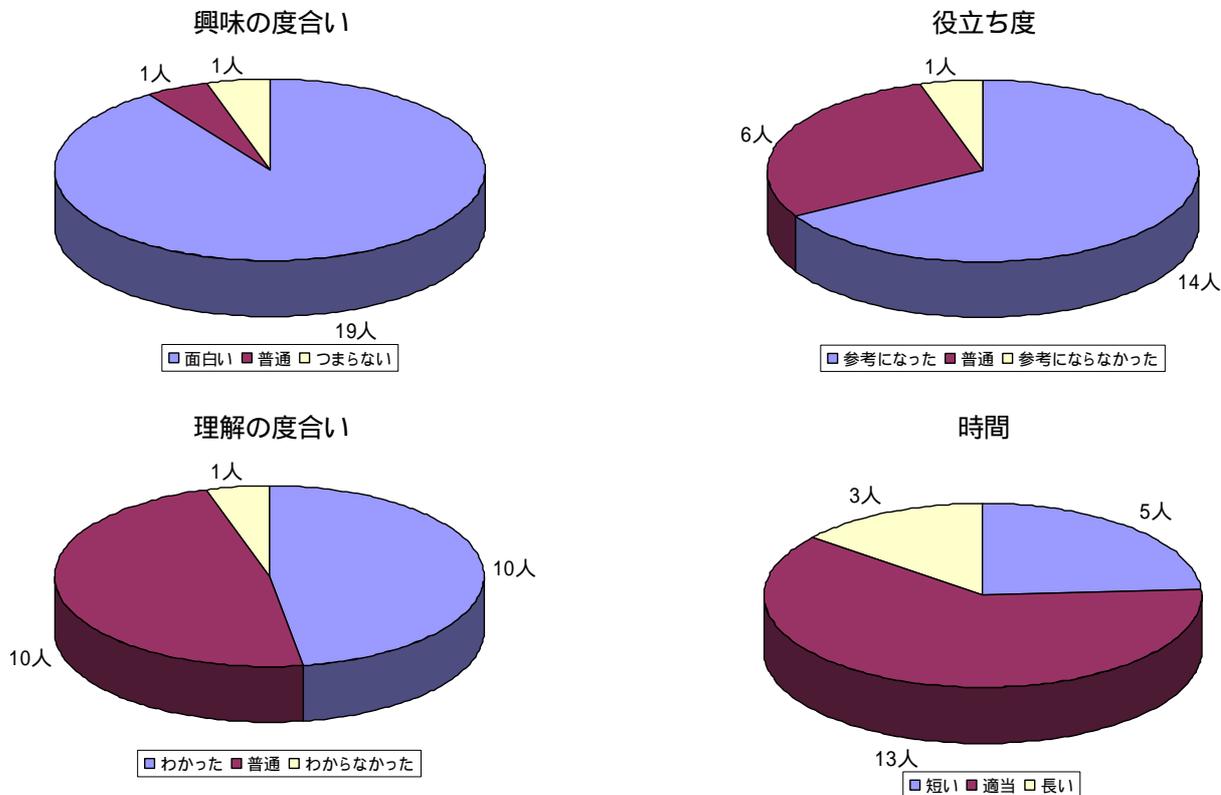
) 特に印象に残ったことは何ですか。

- ・“言葉は方程式である”
- ・成功モデルの適用についての留意点
- ・色即是空 空即是色
- ・言葉の使い方のズレを認識
- ・舵、絆、礎、糧
- ・地域経営のあり方、将来像に関する話
- ・メコン川、ソウルの事例
- ・地域経営の普遍性
- ・社会・意識等の変化について整理
- ・財価社会と知価社会の違い
- ・「まったり」という言葉
- ・世代の違いの話
- ・欧州の考え方と比較した日本の考え方の欠点 等

) その他の意見をご記入ください。

- ・「本質」の部分を掘り下げることが大事であるということが印象に残りました。
- ・「ぴか」「すじ」「いき」を常に意識していきたいと思いました。
- ・配布されていないパワーポイントが欲しい。
- ・シンプルに階層を分けて話していただければありがたいです。
- ・言葉の定義が不明確だったので、もう少しいいいな説明を加えていただけると頭の中の混乱が少ない。

(2) 事例 (講師：寺谷 篤、亀岡 徹 モデレーター：岡田憲夫)



）テーマの設定についてご意見はありませんか。

- ・地域マネジメントの実際という実践者のご意見を聞くことはよいと思います。
- ・理論に続き事例が説明される点でよかった。
- ・実際にやられている方の生の声は、今までの認識をくつがえされるものがありました。
- ・御二人のまったく違った人間性やまちづくりの進め方はあるが、目指しているものは同じであるということが理解でき、よかったと思う。
- ・地域性により差があるものと思われるため、東日本の実践者の方にも話を聞いてみたかった。
- ・商店街の活性化や街並みづくりにおけるマネジメント事例もテーマとしてあるとよかった。 等

）導入や議論の中での会場とのやり取りについてご意見はありませんか。

- ・実践者の奥深い言葉に感動しました。
- ・御二人の違いをうまく引き出されて進行していて大変おもしろかったと思う。
- ・もう少し、受講生と講師、モデレーターとの相互通行がほしいと考えます。
- ・シナリオのないセッションであり、話題がどのように進行するかわかりにくかった。
- ・もう少し事例の紹介があればと思いました。
- ・会場からの意見がやや少なかった。 等

）特に印象に残ったことは何ですか（インパクトを受けた点とその理由）。

- ・言葉の受け取り方の違い（「住民参加」ではなく「行政参加」等）や行政、政治と住民意識の乖離。
- ・両講師の人柄、熱意、独自性等、一言一言に重みがあり、大変感銘を受けた。
- ・「ゲーム感覚で楽しみながら本質をつく」楽しくないとピカッと光るものは出てこないと思いました。
- ・「社会システムとしてステージをつくれれば人材は育つ」という言葉。
- ・まったく相反するリーダーシップのあり方を見れたことが印象に残りました。
- ・事例として出していただいた事例がわかりやすく、参考になった。 等

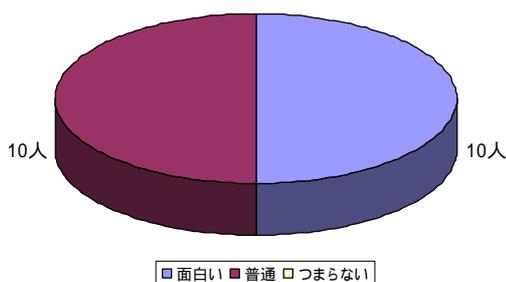
）進行も含め、その他の意見をご記入ください。

- ・実践者の質問に対する的確な応答に感心しました。
- ・成功者のお話の分析と、失敗者の対応を比較すると面白いのでは。
- ・やや間伸びした印象があり、テーマをもう少し区分した方がよい。
- ・断片的に話が移導するため、ついていくのに苦労した。
- ・市町村合併の議論は必要なかったのではないか。 等

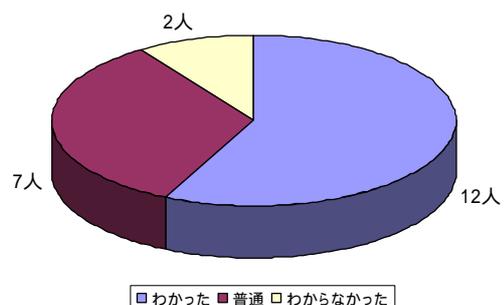
（3）事例 佐原市でのフィールドワーク

1）課題認識（講師：小森孝一、加瀬順一郎、越川悦子 モデレーター：秋口守國）

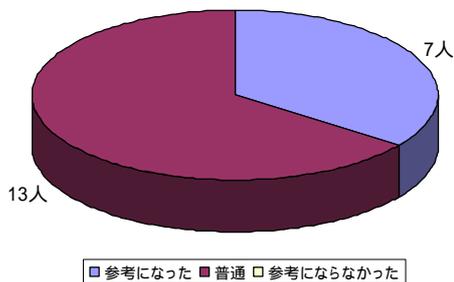
興味の度合い



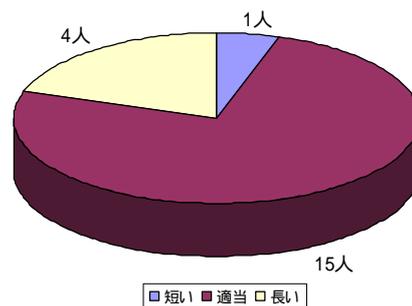
理解の度合い



役立ち度

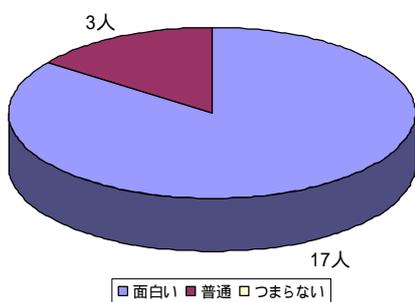


時間

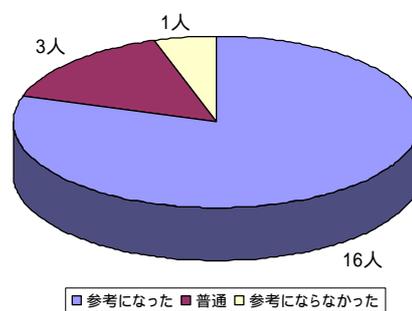


2) 現地見学 (講師: 越川悦子)

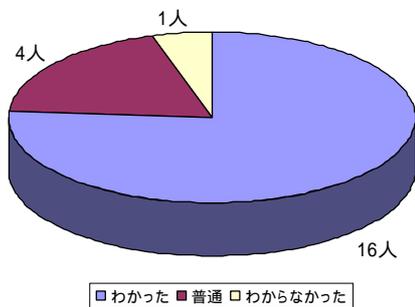
興味の度合い



役立ち度



理解の度合い

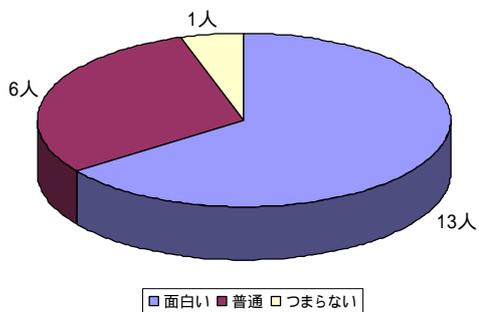


時間

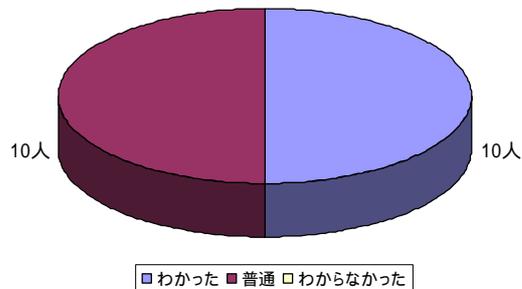


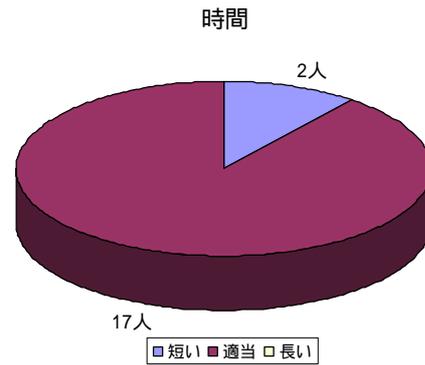
3) 意見交換 (講師: 柏木幹雄、加瀬順一郎、越川悦子 モデレーター: 秋口守國)

興味の度合い



理解の度合い





)対象とした地域の規模・特性等についてはいかがでしたか。

- ・東京に近く、多くの可能性を秘めていて、対策を考えやすいと思いました。
- ・1日程度でとりまとめるには適性規模と思います。
- ・まちに多様な状況が入っていたので、課題地区としては適していたと思います。
- ・中心市街地がすたれている典型的な地域だと思います。ただ、資源(素材) NPOがあるということでフィールドとしては最適だと思います。
- ・江戸からの歴史が生きづき、伝統を守る人たち「この町を本当になんとかしたい」という意気込みをもって活動をしている現状が生に感じられ良いと思った。
- ・駅前の復興と観光振興が含まれ、課題として難しかった。
- ・まちづくりが少し偏った方向にある地区という意味で参考になった。 等

)講師の属性(商工会議所、NPO)についてはいかがでしたか。

- ・住民の意見も聞きたかった。
- ・行政の方のお話も聞きたかった。
- ・若手の方のお話も聞きたかった。
- ・まちづくりについての失敗例とかの事例を説明する講師が必要ではなかったのかと思います。
- ・皆さんが良いことしか言わないので少し残念でした。(もう少し悪い部分もさらけ出して欲しかった。)
- ・商工会議所、NPOの活動は良くわかったが、行政の動きがよくわからなかった。
- ・行政を入れなかったのは良いと思いました。 等

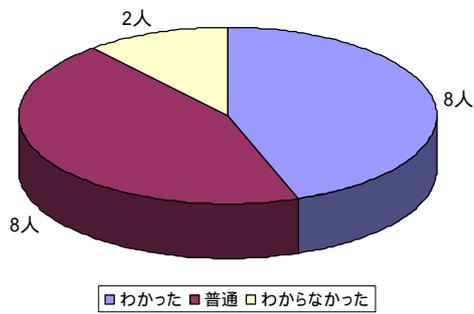
)フィールドワークに関して個々、全体を通して、内容や構成についてはいかがでしたか。

- ・一般の観光客では入ることのできない場所やお話を聞けてよかった。
- ・やはり現場を見ることは最重要と再認識しました。(百聞は一見にしかずを痛感)
- ・生のまちの姿が見ることができ、歴史・まちなみ・特産物等にふれ、まちの良い点・問題点の発見ができた。
- ・もう少し時間等をかけて綿密なフィールドワークを行っていた方が良いと思います。
- ・市役所の方にも出席していただければと思いました。
- ・問題地図などを作成すると効果が高まると思う。
- ・グループ毎に自由に街を歩く時間があっても良かったのでは。
- ・伊能記念館等公共施設の休館日にフィールドワークを設定しない方がよい。
- ・一般の人や観光客と直接話してみたかった。 等

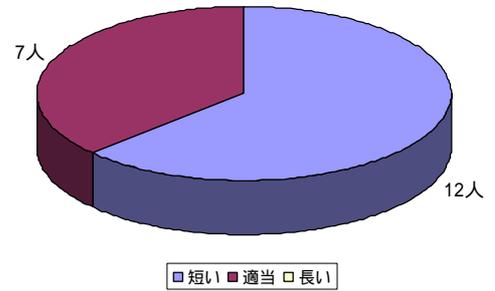
(4) グループ学習について

1) 課題整理 (講師: 寺谷 篤)

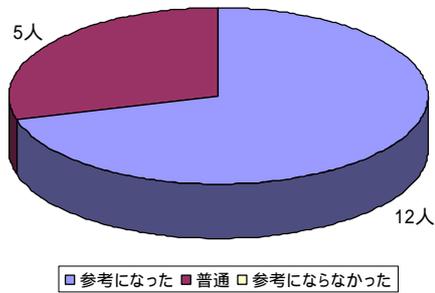
理解の度合い



時間

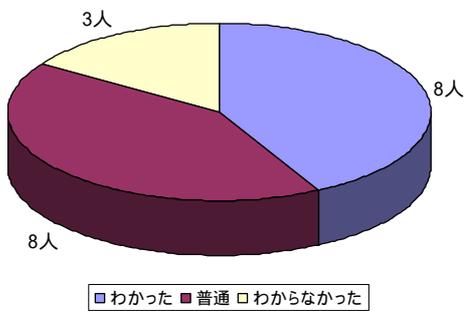


役立ち度

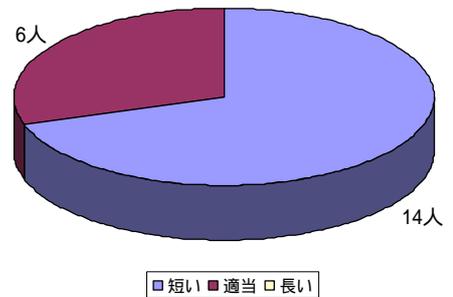


2) 課題解決方法検討 (講師: 寺谷 篤)

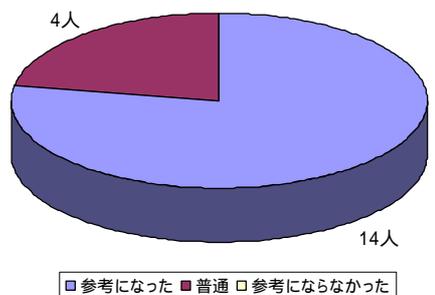
理解の度合い



時間

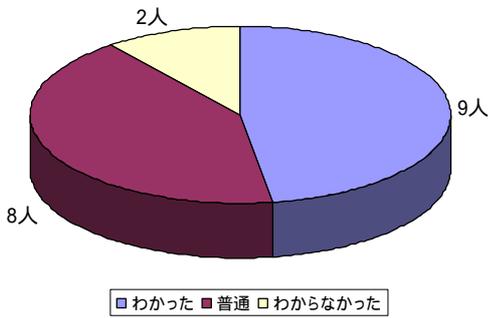


役立ち度

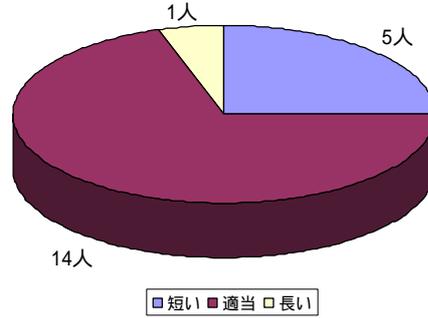


3) 課題解決方法の提案 (講師: 神田 学)

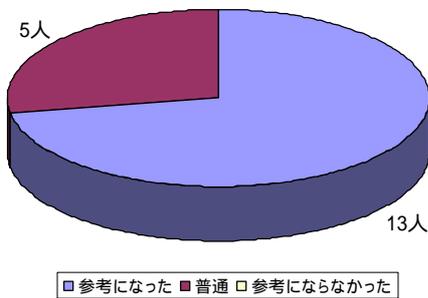
理解の度合い



時間



役立ち度

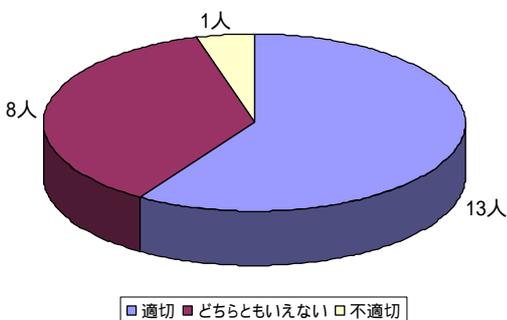


) フィールドワークがグループ学習にどう活きましたか。

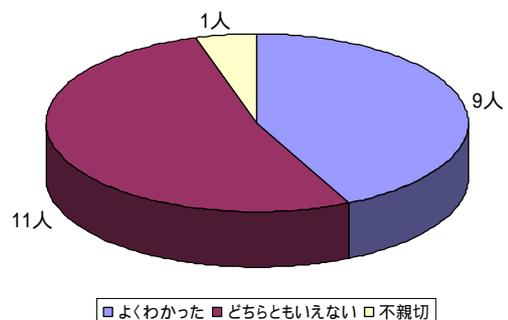
- ・現場を見てからのグループ学習は、非常に良いことであると考えます。
- ・短時間でとりまとめを行うためには、フィールドワーク(現場)が最も情報を入手できる手法と思います。
- ・生で感じた個々の意見が多く出された。
- ・フィールドのイメージがわき、問題点の抽出等で有効だった。
- ・現場を見ることを通じてグループの共通認識ができ、議論がスムーズであった。
- ・まちを実際に歩いて得た率直な感想が四面会議に反映された。等

) 課題設定・検討すべき内容の説明・提示についてはいかがでしたか。

課題設定・検討すべき内容



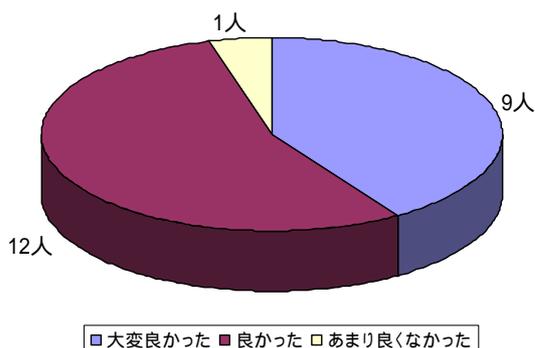
課題設定・検討すべき内容についての説明



<意見>

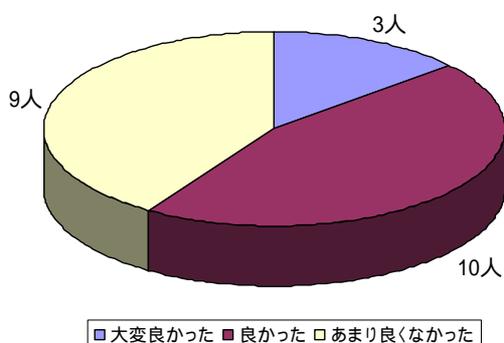
- ・考えさせる意味では適切。
- ・講師が要求していることと、自分たちがやっていることに差があった。
- ・システムに対する説明やシュミレーションを十分に行ってほしかった。
- ・プレーヤーの設定がわかりづらかった。
- ・対象エリア、テーマをもう少し絞り込んでもらえたら良かったかもしれない。 等

) 四面会議システムの採用についてはいかがでしたか。



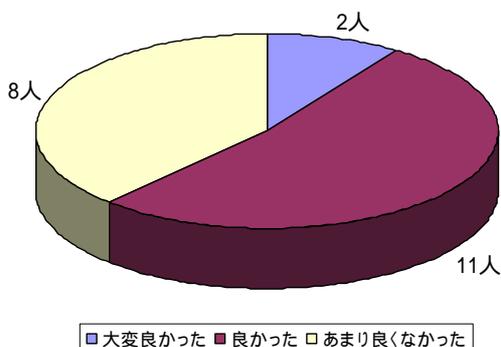
- a. 大変良かった理由
- ・新たな合意形成方式として大変ためになったと思えます。
 - ・多様な視点(立場)から見ることで、問題・方向づけが明らかにすることが出来る仕組みと思いました。
 - ・共通認識の場として最適だと思いました。
 - ・何にでも使えると思った。 等
- b. 良かった理由
- ・グループ学習ではうまくできなかったが、知識としては参考になると思います。
 - ・多方面からの視点という体験ができたことが良かったです。
 - ・改良の余地が(何となく)あると思った。 等

) 四面会議の進め方(作業手順)に対する指導方法はいかがでしたか。



- a. 大変良かった理由
- ・考える(意図を)訓練として非常に良い。
 - ・限られた時間の中ではベストな指導方法だと思います。 等
- b. 良かった理由
- ・適切な指導であったと思います。
 - ・会議のプロセスを具体事例で示してもらえるとより分かりやすい。
 - ・手順等の事前説明が不足していた。 等
- c. あまり良くなかった理由
- ・やり方としては理解できても、実際にやって実感として理解する部分が少なかった。
 - ・手順はわかったが、そのメリットまで実感できなかった。 等

) グループ学習の構成、時間配分などについてはいかがでしたか。



- a. 大変良かった理由
- ・メンバーととことん議論でき、そこで徐々に全員が合意していくプロセスがとても楽しかった。
- b. 良かった理由
- ・もう少し時間があれば、全ての役割でディベートしてみたかった。
 - ・短時間で考えるトレーニングとして良かった。 等
- c. あまり良くなかった理由
- ・グループ学習の絶対的な時間が少なかった。

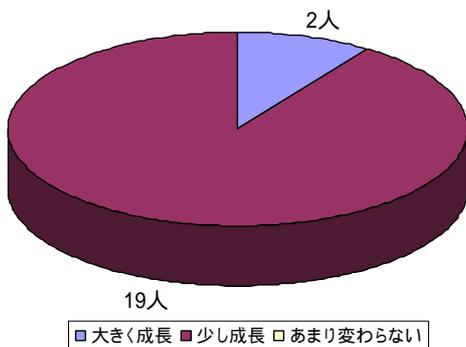
(5) まとめについて

5年後の自分について考えてもらいましたが、それに関して何かご意見はありますか。

- ・自分を振り返る良い機会となった。
- ・昨今の社会情勢からすると、5年後は良い区切りだと思います。
- ・現在の社会経済情勢から会社人としては若干むずかしいものがありました。
- ・研修内容の整理が行え、何が作用できるかが再確認できました。
- ・5年後、今日書いたものを本当にみたい。
- ・研修内容をふり返り、他の参加者の考えを聞くことができ良かったと思う。
- ・テーマが設定されたためまとめやすかった。
- ・面白い視点で良かった。もう少し自分自身が先を見続けるよう気をつけるべきと感じた。
- ・目標とスケジュールが大まかにも考えることができてよかった。 等

5. あなた自身の成長(変化)について

(1) 研修前後であなた自身は変わりましたか。何に刺激を受け成長したと思いますか。



- ・学識、行政、コンサル、住民代表が集い、立場を超えてコミュニケーションができたこと。
- ・新たな発見、学習により、少しは自分自身の成長が見えたと思う。
- ・普段の業務に関し、まじめに取り組みすぎている気がした。
- ・様々な方々の一つ一つの言葉に触れ、考え方、世界の見方の幅が少し広がったと思う。
- ・講師、参加者、スタッフの方々の意識の高さ、意気込みに大いに刺激された。
- ・言葉の解釈、言葉あそび、語彙の不足を認識できた。
- ・寺谷氏の人柄。今までに会ったことのないタイプ。
- ・地域経営の進め方、合意形成との位置関係は理解できた。
- ・成長というより意識改革が大きかったと思います。 等

(2) あなたにとってグループ学習や講義中に紹介されたテクニック(スキル)は意味を持ちますか。

意味を持つとすれば、具体的に何でしたか。また、それを今後の業務や活動にどのように活用していきたいですか。

- ・力行変格活用や地域経営の三原則、普遍性と地域性等、地域経営の本質を考える上で活用していきたい。
- ・言葉遊びや言葉の方程式、四面会議などすべてについて感嘆を受け、これらを自分なりに応用して業務・活動に活用したいと思います。
- ・四面会議は仕事だけでなく、社内、もしくは自分1人で使っていきたいと思います。自分1人でやることは、仕事上での打合せや住民への説明等に必ず役立つことだと思います。
- ・プレストの結果を即ペーパーに構成していく。
- ・現在担当している地域で、四面会議の手法をなんとか使って地域のまちづくり計画を作成していきたいと思う。
- ・四面会議を通じて当事者意識、向き合う、相互啓発などの重要性を再認識できたことが、今後役立つと思います。
- ・仕事の中にも「ことばあそび(ことばずらし)」をとりいれること。
- ・住民との協力、特に行政参加という考え方。住民ともっともっと言える場を持ち、お互いが自立した考えを共有することをめざす。
- ・「意見を理論的に述べるができるというスキル」「意見に対してすぐに反論できるというスキル」を自分の業務(交渉、説明等)に活用したい。 等

6. 研修成果の応用について（実社会の様々な課題の解決にこの研修は役立つと思いますか。）

a. すぐに大変役立つ理由

- ・それぞれの立場をこえて地域経営を考えていくことは大切であり、広い視野と知識を得ることは有効です。
- ・多くの人の意見をひろい上げる会議の方法（四面会議）
- ・フィールドワークによって生のすがたを知る大切さを知った。
- ・物事の摂理は同じと思われるので、多方面で活用できる。 等

b. 将来は大変役立つ理由

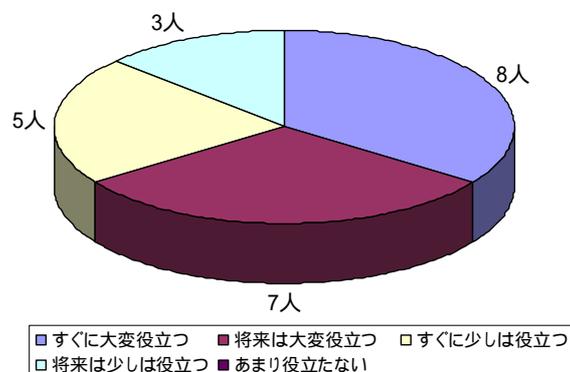
- ・講義で学んだことを実践し、自分の中で磨き上げることで将来に役立たせたいと思います。
- ・まさに地域の時代であるこの時に、こういった地域経営の考え方を学ぶことができ、なんとか役立てていきたい。
- ・研修で受けた刺激を持続しつづけ、人間力、ファシリテーション技術などの向上を図りたい。
- ・様々なプランニングにおける課題解決の手法を体験できたから。
- ・四面会議の考え方（立場を分析し、その意見をぶつけあう。時には反対の立場で考える）大変すばらしいショックだった。

c. すぐに少しは役立つ理由

- ・少しでもすぐに役立て、将来大きく役立てていけると思う。
- ・四面会議をアレンジすれば使えると考える。

d. 将来は少しは役立つ理由

- ・研修成果が、私に関係している業務と合うか分からないため。
- ・四面会議は改良を加えて修正すべき。

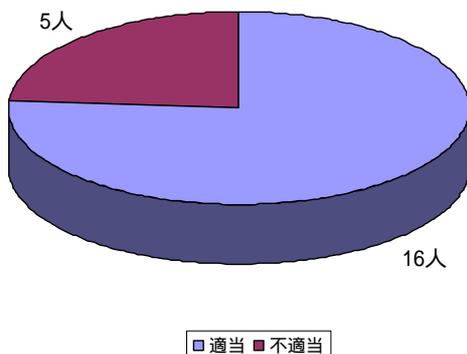


7. 研修プログラムの中で不足しているとお感じの何かがあればお書きください。

- ・研修という形であれば去年と2回セットにしなければあまり効果はないものと考えます。
- ・地域経営の体系の提示や経済学的アプローチなどに関するプログラムもあれば良い。
- ・女性の先生。
- ・テクニク（スキル）の実例、体感できるプログラム。
- ・地域経営セミナーなので、行政担当者の話をきく機会をもっと増やすべき。
- ・四面会議の実践例が知りたかった。
- ・前期セミナーを受けていない人のためのカバーがほしかった。 等

8. 実施時期及び日数等について

実施時期について



a. 適当な理由・意見

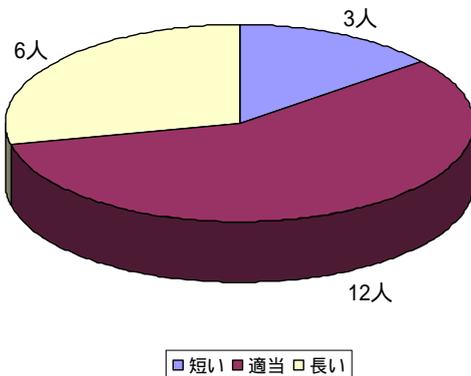
- ・業務が落ち着いている時期であるため。
- ・10月以降は忙しくなるため適当。
- ・比較的融通が利く時期である。 等

b. 不適当な理由・意見

- ・平日開催日は1日もしくは2日とし、3連休等を活用してほしい。
- ・行政側からすると議会月は避けていただきたい。
- ・9月1日は防災の日です。

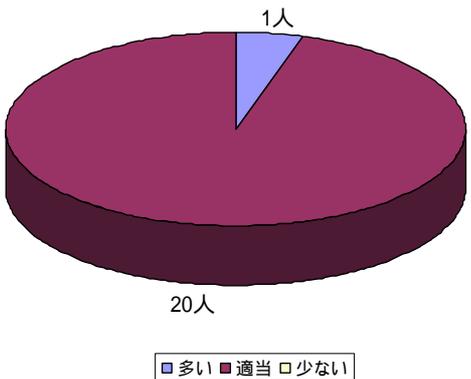
希望時期：5月頃、9月中旬

実施日数について



- a. 短い理由・意見
- ・カリキュラムの内容としては短かった。
 - ・もう一日欲しかった。
希望日数：6日間
- b. 適当な理由・意見
- ・業務との兼ね合いから。
 - ・期間としては長いですが、内容と比べると適当である。
 - ・土日を含めたのはいいアイデアだと思う。
- c. 長い理由・意見
- ・短い時間で頻度を増やすべきと考えます。
 - ・業務への支障。等
希望日数：3日間、1日間

実施人数について



- a. 多い理由
- ・先生と研修生の距離を近づける。
希望人数：15人程度
- b. 適当な理由
- ・3グループが形成でき適当であった。
 - ・皆の顔が覚えられる。
 - ・相互にコミュニケーションがとりやすい。
 - ・今回、特に問題がなかったので。

9. 仮に来年も同様な研修があるとすれば、あなたはまた参加したいですか。参加を希望しない場合はその理由を、希望する人は来年の研修までの間に何かやって欲しいことがあればお書きください。

参加を希望する。

- ・事例として、四面会議のビデオの紹介（ディベートの実際）
- ・国内外問わず地域経営に取り組んでいる地方の方の講演会。
- ・まちづくりを行っている町の視察を実施していただくと良いのでは。
- ・関東以外での実施も検討してほしい。
- ・特に希望する事は思い浮かばないが”まちづくり”であげるとすれば、失敗例を見てみたい。
- ・フィールドワークとして温泉地などはいかがでしょう。群馬の四万温泉や伊香保温泉などは、今、まちづくりに若手が取り組んでいて最適だと思います。等

わからないもしくは内容により参加

- ・期間をもっと短くしていただければ喜んで参加させていただきます。
- ・会社の若手に初歩的な（去年のような）研修を受けさせたい。
- ・職場の他の者も出させるべきと思う。
- ・研修の内容がガラリと変わる（四面会議以外の手法、他のテーマなど）のであれば参加したいと思います。
- ・海外研修等。等

10. 今回の研修において相互研鑽していける仲間やネットワークづくりに有効でしたか。この(人脈)ネットワークをどのように活用したいと思いますか。また、そのための地域経営指南塾からの支援策などについてご要望があればお書きください。

- ・まずメーリングリスト(先生を含め)を作成していただければと思います。
- ・仲間、ネットワークづくりにとても有効でした。
- ・ネットワークづくりとしては有効でした。相互情報の共有ができればと考えます。
- ・指南塾からは講演会の日程や地域経営の事例など、ご紹介、ご提供いただきたいと思います。(特に外国の事例がほとんど入手が不可能です)
- ・何事も出会いが大切なので、今回の出会いをきっかけに様々な情報交換ができればと考えている。
- ・有効、定期的かつ強制的な集まりを指南塾から要望してほしい。
- ・有効であることは間違いありませんが、できればもっと行政の方をいれていただきたかったです。
- ・年1回程度まちづくり情報の交換会、懇親会等を開催してほしい。
- ・日常業務で行きづまった事、また、楽しい事も含めて、今回知り合ったみなさんと相談したいと思います。支援策としては、質問に答えていただく窓口を作してほしい。
- ・四面会議のケーススタディ。5年間ケース・ブックにまとめる。 等

11. 最後になりますが、参考までにお聞かせください。このセミナーを誰かに勧めたいですか。また、今回のプログラムで最も高い成果が得られる人は、あなたの職場においてどのような人だと思いますか。イメージする人の部署や職場(例: 課、系の職務の人)及び役職(or 年齢層)を教えてください(自分を含めてお答え下さい)。また、なぜそう考えるか簡潔に記述してください。

- ・(都市)計画系、課長~主任技師:業務の最前線で苦労しているから。
- ・全社の30~40才までの技術者:このセミナーは部や役職等を限定するものではなく、上記人材にすべてに必要があると考えます。
- ・設計係の人、30代:今~今後にかけて設計の前段として、住民の意見を聞くことが要求されているので、設計の人が直接体験してほしい。
- ・計画系の部署、若手~中堅:一番実践する機会の多い部署、層の人にセミナーを受けてもらい、社内にもちかえり広げたいとよい。
- ・企画課、40才くらい:土木の知識は不要であり、まち全体を見る意欲のある人が受けるのがよい。
- ・計画系の人、35才前後:今後、業務実務者の中心となる人かつ教育していく立場になる人だから。
- ・職場の後輩達:将来必ず地域経営が必要となるから。
- ・30~35才、職歴5~10年の人:これから現場のリーダーとなる人に対する研修をしたほうがよい。
- ・行政において企画担当者:町づくりにおいてハード・財政・人づくり等の中心となる人間に役立つのでは。
- ・部下、他支社の計画関係の管理職:地域づくりに対する取組み姿勢やファシリテーション技術を学ぶことができる。
- ・私の職場、部署でイメージすると市町村合併、川づくりに関わる職務の人(30代):まず、私の部署の主な業務である市町村合併、川づくりは住民参加、合意形成を核として進めているからです。その進め方もWS、説明会、協議会など多様であるとともに、そのような場で説明する者は、実際にプランを検討している30代の人間がやるべきだと思うからです。
- ・係長クラス(計画系):人と会うのは若い時にこそ重要です。
- ・全ての部署、リーダー職(40前後):「技術」「人間」の幅を広げる。勧めたい
- ・すべての部署、管理職以上:地域経営のノウハウを持っていない
- ・あらゆる部署から、関連ある2部門の課長級と係長級:横のつながりをもって日常業務に生かすため。また、1人では持ち帰り生かすには不十分と感じる。
- ・事務所の課長、係長クラス:地元実際に入っているから。

